

【実施要項】

「学年チーム担当制」の導入ー子どもの理解と可能性を広げるためにー

1 導入の背景

私たちがこれまで経験してきた学校教育は、一人の担任が1年間同じ学級を担当するのがほとんどでした。中には2年間クラス替えなしで同じ一人の担任の先生というケースが多い時代もありました。そして、その形は、子どもたちにとってたくさんの思い出や先生とのよい出会いがあり、今も忘れられない先生がいるという方も多いと思います。

しかし、現代の社会は、人の生き方や職業、生活の様子などが多様化し、未来を生きる今の子どもたちも、そのような社会の変化に対応する力を身に付けることが求められ、学校教育で今まで以上に、一人一人の子どもの可能性を広げ、社会に対応する力、生きる力を伸ばしていくことが大切になってきます。

そこで、これまで一人の担任が1年間同じクラスを受け持つ形ではなく、学年の教員の中で学期ごとに教員が代わりながら担当し、様々な視点で子どもを理解することを目指す「学年チーム担当制」の導入を考えています。

この形は、「学年」という一つのチームで子どもを見守り、共有し、子どもへの理解を深めることで、子どもへのサポートの仕方を考え、可能性を広げていこうとするのが大きなねらいです。また、子どもたちにとって、自分のことを知ってくれている先生が一人でも増えることで、子どもたちに安心感を持たせることにつながるのではと考えます。

全国の自治体や学校においても「チーム担任制」を導入するケースも見られ、これまでの「1年間一人の担任」のあり方について検討する動きが見られるのも事実です。

いずれにしろ、つつじヶ丘小学校の子どもたちにとって何が必要か、どんな学校教育のあり方が子どもの成長につながるのかをしっかりと考え、実現することが大切です。その一つがこの「学年チーム担当制」の導入と考えています。

令和5年10月

亀岡市立つつじヶ丘小学校

校長 中川 健志

2 用語の整理(本校独自の解釈)

- (1) 担任・・・1年間同じ学級を受け持つ教員のこと
- (2) 担当・・・学期ごとに学級を受け持つ教員のこと

3 導入の主なねらい

- (1) 「学年」というチームで、教員が様々な視点で子どもを理解し、共有することでより効果的なサポートを実現させ、子どもの成長につなげる。
- (2) 教員自身が学習指導、生徒指導や学級経営などについて、お互いに学び合う意識を高め、教員としての力を向上させる。

4 子どもたちにとっての「学年チーム担当制」

- (1) 自分のことを知ってくれている先生が一人でも多くいること → 安心感の高まり
- (2) 自分のことを様々な視点(教員の)で見られること → 自分の可能性の広がり・自己肯定感の高まり
- (3) 様々な先生との出会い → 子ども自身の考え方や視野の広がり

5 導入にあたっての留意事項

- (1) 「学年チーム担当制」と並行して複数の教科領域で担当教員を交換して授業を行い、次の学期が始まる前に、子どもと教員(特に次の学期の担当)がお互いに知っている形を取り、次の学期に備える。
- (2) 「学年チーム担当制」は令和6年度から4年生以上の学年で実施し、特別支援学級及び3年生以下は実施しない。ただし、令和7年度以降の導入学年については、この取組の成果と課題を検証しながら検討する。

6 具体的な例

1学年4クラスの場合



A 先生



B 先生



C 先生



D 先生

	1組	2組	3組	4組
1学期担当	A 先生	B 先生	C 先生	D 先生
2学期担当	B 先生	C 先生	D 先生	A 先生
3学期担当	C 先生	D 先生	A 先生	B 先生
1学期国語科担当	B 先生	D 先生	D 先生	B 先生
1学期算数科担当	C 先生	C 先生	A 先生	A 先生

※1学期の学級担当以外の教員が2教科程度、その学級の授業を担当する。対象教科は国語・算数に限らない。

1学年3クラスの場合



A 先生



B 先生



C 先生

	1組	2組	3組
1学期担当	A 先生	B 先生	C 先生
2学期担当	B 先生	C 先生	A 先生
3学期担当	C 先生	A 先生	B 先生
1学期国語科担当	A 先生	A 先生	A 先生
1学期算数科担当	B 先生	B 先生	B 先生
1学期理科担当	C 先生	C 先生	C 先生

※1学期の学級担当以外の教員が2教科程度、その学級の授業を担当する。対象教科は国語・算数に限らない。

7 その他

・次の担当教員については、前の学期末に行う個人懇談の前に文書にて周知する。(終業式の10日前程度)

8 Q&A

Q1 学期ごとに担当が代わることで、子どもが不安にならないでしょうか？

A1 担当の先生が代わることは、子どもたちにとって大きな環境の変化となり、不安に思うこともあるかと思いますが、そこで、まず①教員同士が子どもに関わる状況を日々確実に共有し、情報をつかんでおくことが大切です。また、②学級の枠を越えて授業を行うことを並行して取り入れることで、学年の教員が各学級の状況を把握することにつながり、子どもたちも次の担当教員のことをある程度知っている状況をつくることができます。さらに、③保護者からの相談窓口も、担当教員一人に限らず学年の他の教員になることもできます。以上の3点を中心に、子どもたちの不安を少しでも和らぐよう、引き続き、教育相談を中心に学校での子どもの居場所づくりに努めていきたいと考えます。

Q2 教員の多忙感が増すのではないですか？

A2 たしかに、新しい取組で、しかも前例の少ないシステムになりますので、教員としてこれまでと異なる意識や動きが必要になります。その一方で、これまで学年という形がありながらも自分の学級の課題などを一人で抱え込むことも多々あり、思いや悩みを共有しにくいこともありました。そこで、自分の学級だけでなく学年の子どもたちを学年の教員みんなで見守る意識を「学年チーム担当制」というシステムから高めていけるのではと考えます。悩みや課題を共有することで、より適切な対応の仕方やアイデアが生まれ、教職に携わる者としての「やりがい」を感じるにつながるのはと考えます。

Q3 担当の教員によって学級づくりのやり方に差があると、子どもが戸惑うのでは？

A3 教員によって学級づくりのやり方にちがいがあるのは、やむを得ないところもありますが、それで子どもたちが戸惑ってしまうことは、できる限り避けなければいけません。それを少しでも解消するために、年度当初に学年集会などを開き、学年としての基本的なルールや共通して指導することなどを全体に伝えて共有することが大切です。また、教員同士で、当番や係活動などの進め方なども確認し、共通して進めることと担当の裁量の中で進める部分と明らかにしておく必要だと思えます。その一方で、子どもたち自身が様々な先生と出会い、様々な考え方ややり方などを経験し、これから子どもたちが大人になる過程で自分の生き方や考え方の糧にしていくことにつながればと考えています。

Q4 例えば、同じ先生が1学期と3学期の2回担当する場合がありますか？

A4 この「学年チーム担当制」の主旨をふまえ、原則として、同じ教員が1年間に2回同じ学級を担当することはありません。ただし、学校体制として不測の事態ややむを得ない場合は、この限りではありません。基本的には3人ないし4人の教員で各学級を交代して担当する形を取ります。

Q5 「学年チーム担当制」はこれからずっと続けるのですか？

A5 基本的に続けていく見通しです。ただし、このシステムで課題などが見られた場合、保護者や地域、学校運営協議会、教育委員会などの意見や助言を伺いながら、積極的に改善を図っていく柔軟さも必要かと思えます。また、国の施策で大きく改革が行われる場合も、それに対して柔軟に対応するべきです。いずれにしても、この「学年チーム担当制」というシステムが、子どもたちの成長にどうつながったのか、学校教育としての成果と課題は何なのかを十分に検証しながら、よりよい形をつくっていくことが重要だと思えます。

Q6 子どもたちのことについて、学年の教員で十分共有できるのかどうか心配です。

A6 これまでも学年で子どもたちの学習状況や生徒指導など様々な視点を持って、会議や打合せなどで話し合い、共有することに努めてきましたが、不十分な点や十分な引継ができていないこともありました。しかし、この「学年チーム担当制」は、教員にとって次の学期は隣の学級を担当することになるわけですから、隣の担当教員の指導や学級経営について一層意識して見ることにつながり、それによる子どもたちの変化や成長についても自然に意識し、一人一人の教員が子どもたちのことを自分事として捉えるようになるのではと考えます。また、学期末の個人懇談などで、保護者から次の担当教員に伝えてほしいこと、引き継いでほしいことをタイムリーに伝えることで、それも同じ学年の教員同士で共有する事項となりますし、年度が変わるわけではありませんので、教員が他の学校に異動することもなく同じ学校、学年にいるわけですから、日常的に情報共有や引継ができます。この「学年チーム担当制」は教員同士が子どもたちのことを、どれだけ確実に共有できるか、言い換えれば、「どれだけ子どもたちのことを知ろうとしているかどうか」が、重要なポイントと理解しています。

Q7 いじめや生徒指導上の課題が起こった時の対応はだいたいどうぶでしょうか？

A7 いじめや生徒指導上の課題が起こった時、それがさらに悪化したりエスカレートしたりする原因の一つに、一人の先生が抱え込んでしまい、発見や対応が遅れたりすることが上げられます。この「学年チーム担当制」は複数の目で学級や子どもを見守る意識を高めることをねらいの一つとしていますが、一人の先生がもし気づけなかったとしても、別の先生たちが気づいてくれることで、早い対応につなげたいと思います。また、そのあとの対応も、学年の先生方が自分事として課題を捉えることで、思いを共有しながら知恵を出し合い、より効果的な対応につながると考えます。そこに、生徒指導や教育相談担当、管理職などが加わることで、学校全体のいじめや生徒指導への「対応力」を高めていきたいと思っています。

9 今後の流れ

8月	局・市教委・市小学校長会・東輝中ブロック各校長への説明
9月	運営委員会・職員会議・PTA・学校運営協議会への説明
10月	保護者説明会案内配付・説明動画配信、意見・質問等の受付
11月	保護者向け説明会(11/10)、説明動画配信、意見・質問等の受付
12月	説明動画の配信、意見・質問等の受付
1月	実施有無の決定及び保護者への通知、児童への説明
令和6年度 4月	「学年チーム担当制」スタート(4年生以上) ※実施と決定した場合